

令和4年度 第1回障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会について（概要）

[日 時] 令和4年8月22日（月） 13:00～15:00

[場 所] 檜山合同庁舎4階 講堂

説明・報告

【障がい者福祉の概略、各制度など説明】

今般、地域づくり委員として就任した方も多いことから、障がい者福祉を巡る制度や概略の流れ等について説明

【当委員会の活動内容について】

- 北海道障がい者条例に基づき設置された委員であること。
- 障がい者に対する虐待や差別等に関する相談等を受け、対応や協議を行う委員会であること。
- 2年ごとに地域ごとの「地域課題」を設定し、それに対する対応などを協議する。
- 前期（R2～3年）の活動について

R2～3年活動内容

- ① 管内各町における「障害者差別解消法の認知度調査」を行ったところ、認知度の低さ（「存在を知らない」との回答が63%）が見られたため、各町の広報誌への折り込みチラシを作成し配布した。
- ② 「障がい者の地域での居場所」として管内GH等の入居者へ取材活動を行い、地域での居場所の確保や障がいへの理解の促進が必要との考察結果が出たため、文書として取りまとめた。
※居場所…居住、就労を含めた日中活動、余暇の過ごし方

議 題

【新型コロナウイルスに感染等した障がい者に対する合理的配慮の提供について】

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、自宅待機を指示された視覚障がい者が、配達された支援物資を識別できなく苦慮した事例を紹介。

⇒読み取りアプリを使った品目リストの確認や配達する物資への点字対応など、合理的な配慮を行う取組について紹介した。

【地域課題「8050問題」について】

一般的な定義としては、「80代の親が50代の引きこもりや無職の子どもを養っている」状態

- (1) 事務局より、8050問題についての概要と経過、8050問題が原因と思われる事件の例の説明を行った。
- (2) 地域づくりコーディネーターより、親子が社会的に孤立し、生活が立ちいかなくなる深刻なケースの報告を行った。
- (3) 檜山地域での地域課題として8050問題を取り扱うことについて

全道の中でも檜山は高齢化の傾向が高く、相談先も限られているため、これまで表にならなかった問題として「8050問題」が出てくる可能性は高いと思われる

今後、高齢化の進行により、地域において「8050問題（引きこもりの長期高齢化）と呼ばれるケースが増えることが予想される。背景には引きこもり状態の子が知的・精神・発達など何らかの障がいを持ち、それに対して支援を得られず、社会との接点が途絶えていること等が考えられ、それに対する支援の方策などを課題として検討することとした。

「社会的引きこもり」＝仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流を殆どせずに、6ヶ月以上続けて自宅に引きこもっている状態



委員からの意見を次回につなげていく

- ◆「義務教育段階で知的な遅れがうかがえた子どもがいても、高校進学や就職で町外に出るといったタイミングで、支援や見守りの体制が切れてしまう」
- ◆「不安のあるケースについては、継続して支援者が関わりを持つ体制が望ましい」